

## メディア表現で見る現代の差別

本論文の目的は、差別に対する認識は高まっている一方、現代のメディアでの差別表現がどのように登場し、それが現代の残存している差別をどう説明するのかについて明らかにすることである。第1章では、差別や嫌悪という単語に含んでいる意味など差別について理解を深めた。第2章では、表現の自由と差別表現の変遷について研究し、差別表現に対する誤解や間違いなどに説明を行った。また、第3章では、実際、現代のメディアで差別はどのように表現されているのかについて、大きく性差別、人種差別、年齢差別、障害者差別を中心に例を見ながら差別表現を確認した。その結果、差別に気付くためには、差別語だけではなく、脈略、雰囲気まで理解する必要があるという事や表現の自由は他人の権利を侵害すると保障されないことなどが明らかになった。また、社会に差別があるからこそ、認識されず、メディアに差別表現として載せられ、その形は様々であるという事が明らかになった。だからこそ、メディアでの差別をなくすためには、社会全体の意識変化が必修的である。メディアを作る側は差別ない、誰も傷つけないメディアを作ることがこれからの課題であり、消費者側にはメディアをそのまま受け入れるのではなく、批判的思考でメディアを消費するなどの努力がこれからの課題になると考えられる。